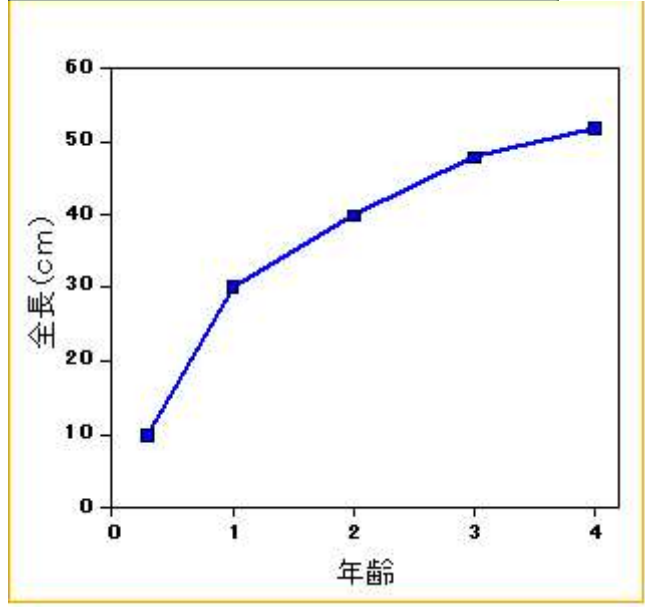
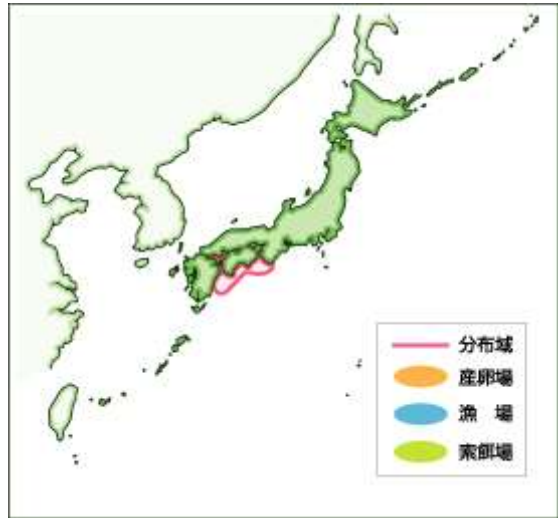


トラフグ *Takifugu rubripes*
瀬戸内海系群 担当：瀬戸内海区水産研究所



生物学的特性

- 寿命：10歳程度
- 成熟開始年齢：雄は2歳、雌は3歳から
- 産卵期・産卵場：4～5月主体に関門内海、備後・芸予瀬戸、備讃瀬戸など
- 索餌期・索餌場：0歳は夏～秋、1歳は春～秋に内海域
- 食性：稚魚は底生性の小甲殻類、未成魚期以降はイワシ類などの魚類や甲殻類
- 捕食者：不明



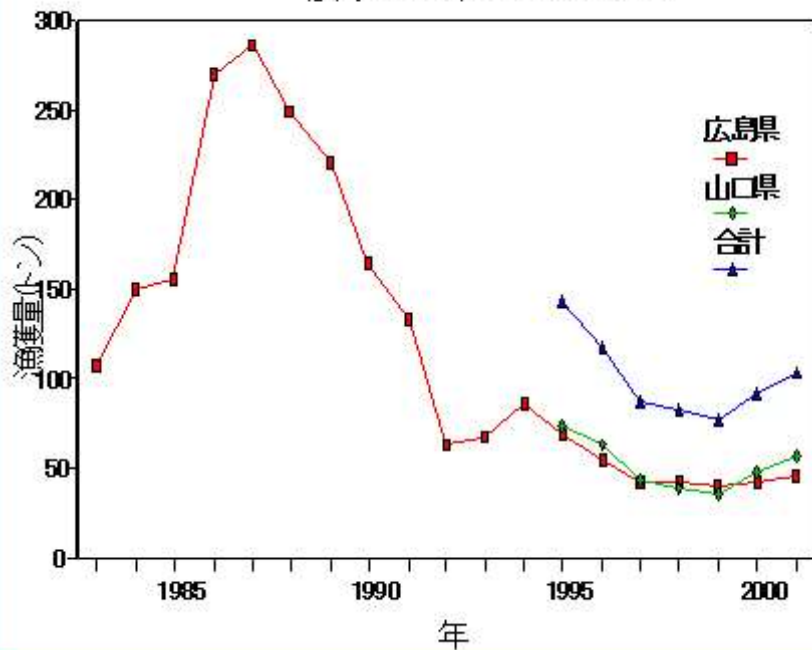
漁業の特徴

親魚は春に産卵場で定置網、吾智網、釣り、敷網等で漁獲される。幼魚は産卵場の周辺で小型底びき網、定置網で漁獲され、成長に伴って秋には外海に近い伊予灘、豊後水道及び紀伊水道で延縄で漁獲される。日本海や東シナ海・黄海に回遊する個体もある。瀬戸内海ではフグ類として一括され、漁獲量は不明である。広島と山口のトラフグ漁獲量は1995年の144トンから1999年の77トンまで減少した後、2001年の103トンまで増加した。

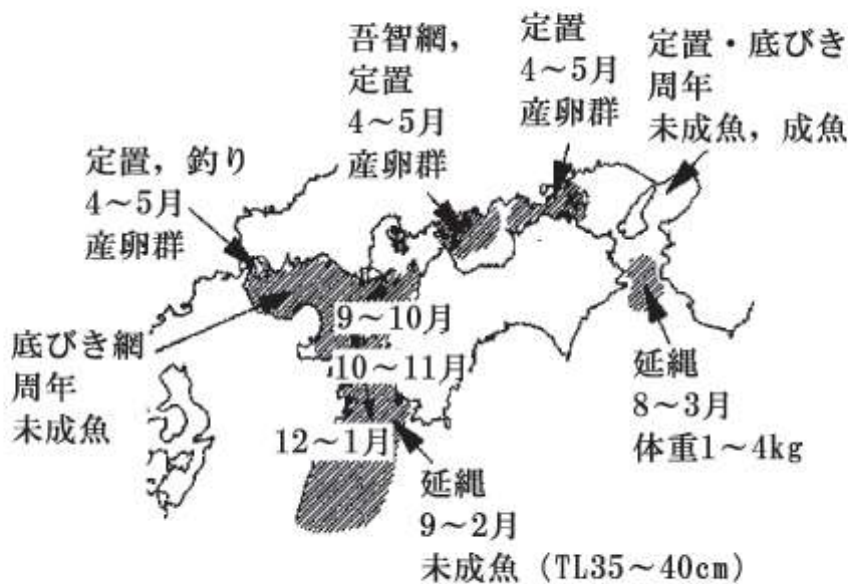
漁獲の動向

2001年春の親魚漁：東部の庵治（香川）では1.8トン、西部の走島（広島）ほか5つの漁協では15.2トンを漁獲した。2001年秋～2002年冬の未成魚漁：東部の椿泊（徳島）では4.9トン、西部の姫島（大分）ほか6漁協では41.4トンを漁獲した。当歳魚漁：東部での状況は不明である。西部の田尻（広島）における8～12月の当（0）歳魚の漁獲量は1996年以降低水準にあるが、1996年を底に上向きになっている。

広島・山口県のトラフグ漁獲量



トラフグの漁獲



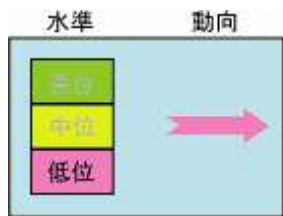
資源評価法

瀬戸内海ではほとんどの県で単一種として漁獲量を把握できておらず、資源の量的評価はできない。しかし一部の漁協において月別の漁獲量や漁獲したトラフグの年齢構成を把握しており、それらの年変化から資源の水準や動向に関する質的評価を行った。

資源状態

2001年の親魚量水準は1989年以前の7年間の平均値を基準に東部で4.3%、西部で9.1%に低下している。未成魚量水準は同様に東部で33%、西部で15%となった。資源は低水準で横ばい傾向にある。1995年までは魚が大きくなならないうちに漁獲する成長乱

獲であったが、1996年以降年々の加入量が減少する加入乱獲となった。



管理方策

ABClimitを過去5年間の平均漁獲量の9割又ABCtargetはその8割とした。漁獲量が把握できる山口・広島2県のABCは下記のとおり。なお2002年から統計収集システムが改善され、瀬戸内海のほぼ全県でトラフグの漁獲量が収集される。2002年から瀬戸内海全体のABCを算出する予定である。

	管理基準	A B C (トン)	漁獲割合	F 値
A B C limit	0.9 Cave5-yr	79	-	-
A B C target	0.8 ABClimit	63	-	-

資源評価のまとめ

- 親魚量は低位、1996年以降加入乱獲になっている
- 1999年以降の加入はそれ以前の3年に比べて良い
- 資源水準・動向は低位・横ばい

管理方策のまとめ

- 資源の減少は過剰漁獲が原因
- 資源回復を図るには漁獲量の抑制や種苗放流の強化が考えられる
- 親魚と幼魚で漁獲される地域・漁法が異なるため、バランスを考えた資源管理が必要
- 2歳頃から一部が東シナ海や日本海西部に回遊しそこで漁獲されるので、これらの地域と連帯して資源管理を行う必要がある